

2022年4月17日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第64巻第55号(通算3283号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:15-10:30 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう 週報

教会標語

かみさま ひと とも
神様がすべての人と共におられる
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

丈夫な人には医者はいらないが、具合の悪い人には、必要なのだ。実に、私が来たのは、「正統派の人」を招くためではなく、「道をふみはずした者」を招くためである。(マルコによる福音書2:17)

イースター(復活日) 礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

ぜん そう もくとう ちよさくけんしやうめつ
前奏(黙祷) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しへん へん せつ
招きの詞 詩編 68編 20-21節

てんとう ことば さんび ばん ばん せつ
点灯の詞と賛美 21-290番「おどり出る姿で」(©JASRAC)

お祈り

さんび か ばん まぶね
賛美歌 21-280番「馬槽のなかに」(©JASRAC)

せい し しょう し とげんこうろく しょう せつ
聖書 使徒言行録 5章 29-32節

ろうどく さんび じゆなん ふつかつ ものがたり あ
朗読と賛美 受難と復活の物語「ガリラヤで会える」

21-306番「あなたもそこにいたのか」(1-3節) (©著作権消滅)

21-333番「主の復活、ハレルヤ」(1節のみ) (©教団出版局)

21-331番「主はよみがえられた」(3唱) (©JASRAC)

ユーカリスト
聖餐

うしだ ただし ぼくし
牛田 匡 牧師

きやうどう いの へいわ
共同のお祈りと、平和のあいさつ

さんびか ばん な しゆ いの こうどくぶん
賛美歌21-524番「われらみ名により」(©P.D.)・「主の祈り」交読文

ささげもの
献げ物(*)

は けん ばん かみ めぐ う せつ
派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゆく ふく ばん せつ
祝福 牛田 匡 牧師

こう そう ばん ちよさくけんしやうめつ
後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

ほう こく ばん ばん
報告 (8頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 詩編 68編 20-21節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

20 わが主をたたえよ。我らの救いの神は／日々、私たちを担ってくださる。

21 我らの神は救いの神。／わが主は死から逃れさせてくださる神。

点灯の詞と賛美

点灯者① イエスさまの生涯をたどりましょう。(1本目に点灯)

イエスさまは家畜小屋で生まれ、飼い葉桶に寝かされました。

賛美歌 290番「おどり出る姿で」1節

点灯者② イエスさまは、漁師のペトロさんに「網を捨てて私についてきなさい」と言われました。(2本目に点灯)

賛美歌 290番「おどり出る姿で」2節

点灯者③ イエスさまは、安息日に病氣の人に手当てをされました。(3本目に点灯)

賛美歌 290番「おどり出る姿で」3節

点灯者④ イエスさまは、この世界の罪のために十字架に掛けられました。(4本目に点灯)

賛美歌 290番「おどり出る姿で」4節

点灯者⑤ イエスさまは、復活されました(5本目に点灯)

みんな アーメン

賛美歌 290番「おどり出る姿で」5節(6本目に点灯)

(出典：『みんなで礼拝アイデア集』日本キリスト教団出版局 29頁)

聖書 使徒言行録 5章 29-32節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

29 ペトロと使徒たちは答えた。「人に従うより、神に従うべきです。30 私たちの先祖の神は、あなたがたが木に掛けて殺したイエスを復活させられました。31 神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、ご自分の右に上げられました。32 私たちはこのことの証人であり、また、神がご自分に従う人々にお与えになった聖霊も、そのことの証人です。」

朗読と賛美 「受難と復活の物語『ガリラヤで会える』」

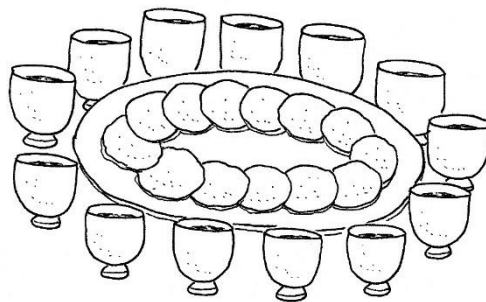
司会者 聖書には、神が人間に真実ないのちを与えるために行われた沢山の出来事が記されています。その歴史のクライマックスが「イエス・キリストの受難と復活である」とキリスト教会は述べ伝えてきました。

歴史上の人物であるイエスが何故、神の子キリストなのか。4つの福音書は強調点を少しずつ変えて著しています。今日は「マルコによる福音書」を通して、「イエス・キリストとは誰なのか」、メッセージを聞いていきましょう。

ナレーター① 「ファリサイ派の人々は出て行き、すぐにヘロデ党の人々と一緒に、どのようにしてイエスを殺そうかと相談を始めた」(マルコ 3:6)。ユダヤ教には「安息日」と言って、神を敬うための休日があり、その日にはしてはならない行為や労働が細かく決められていました。それにもかかわらず、その安息日にイエス様が病人に手当てをされたことで、イエス様を殺そうとする人たちが現れました。

ナレーター② イエス様は弟子たちと生活を共にしながら、旅をしました。神の国について教え、たくさんの病人たちを手当てし、弟子のペトロからは「あなたは神からの救い、キリストです」(マルコ 8:29)と告白されました。イエス様は自分が誰なのか、弟子たちに示された後、ご自分の十字架による死と復活(引き起こし)について3度予告しています。そしてイエス様に従う者の「道」を語りましたが、弟子たちは理解できませんでした。

イエス様は30歳あまりの生涯を終える最後の一週間にエルサレムの都に入りました。神殿のあるべき姿を、力づくで示した後は、全てのことが危機へと進んでいきます。



司会者 エルサレムのある家の2階で「過ぎ越しの祭り」の食事を終え、イエス様と弟子たちは、祈るためにオリーブ山に出かけました。

聖書朗読 マルコによる福音書 14章 32-42節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

³² 一同がゲツセマネという所に来ると、イエスは弟子たちに、「私が祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。³³ そして、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを伴われたが、イエスはひどく苦しみ悩み始め、³⁴ 彼らに言われた。「私は死ぬほど苦しい。ここを離れず、目を覚ましていなさい。」³⁵ 少し先

に進んで地にひれ伏し、できることなら、この時を過ぎ去らせてくださるよ
うにと祈り、³⁶ こう言われた。「アッバ、父よ、あなたは何でもおできにな
ります。この杯さかずきを私から取りのけてください。しかし、私の望みではなく、
御心みこころのままに。」³⁷ それから、戻って御覧になると、弟子たちが眠っていた
ので、ペトロに言われた。「シモン、眠っているのか。一時も目を覚まして
いられなかったのか。³⁸ 誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。
心ははやっても、肉体は弱い。」³⁹ さらに、向こうへ行って、同じ言葉で祈
られた。⁴⁰ 再び戻って御覧になると、弟子たちは眠っていた。まぶたが重く
なっていたのである。彼らは、イエスにどう言えばよいのか、分からなかつ
た。⁴¹ イエスは三度目に戻って来て言われた。「まだ眠っているのか。休ん
でいるのか。もうよかろう。時が来た。人の子は罪人たちの手に渡される。
⁴² 立て、行こう。見よ、私を裏切る者が近づいて来た。」

ナレーター③ こうしてイエス様は苦しんで祈りました。一番近くにいる弟子た
ちにも理解されず、十字架の死を前にして神様からの答えもありません。弟子のユダに裏切られ、敵の手に渡されました。一切を置いて
イエス様について来たはずの弟子たちも皆、逃げてしまいました。

イエス様は、逮捕から死までの間に、政治家や宗教家、群衆や兵士
たちから侮辱されただけでなく、一緒に処刑されて十字架につけ
られている犯罪者にもものしられています。

そっと様子を見に来たペトロは、自分もイエスと一緒にいたと問
い詰められて、イエスを知らないと言い、3度目には呪いの言葉さえ
口にしました。「そんな人は知らない」

賛美歌 21-306番 「あなたもそこにいたのか」(1-3節のみ)

聖書朗読 マルコによる福音書 15章 33-37節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

³³ 昼の十二時になると、全地は暗くなり、三時に及んだ。³⁴ 三時にイエス
は大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが
神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」という意味である。³⁵ そ
ばに立っていた何人かが、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる」と
言った。³⁶ ある者が走り寄り、海綿に酢を含ませて葦の棒に付けてイエスに
飲ませ、「待て、エリヤが彼を降ろしに来るかどうか、見ていよう」と言っ
た。³⁷ しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。

司会者 「創世記」によれば、人間の命は神様の恵みの現れでした。そして「死」は神の命から切り離された所にあり、最大の敵と考えられました。神を愛し、神に愛された命を生きたイエス様にとって、死は最後の大きな試練でした。常に「父よ」と呼びかけて祈るイエス様が、十字架上での最期には絶望的な叫びをあげました。

ナレーター① イエス様が息を引き取った時、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けました。十字架上でのイエス様の一部始終を見ていたローマ兵は言いました。「まことに、この人は神の子だった」(マルコ 15:39)

ナレーター② 絶望しながらも全てを引き受け、味わい尽くす中で神に呼びかけたイエス様の物語は、死と埋葬では終わりませんでした。

賛美歌 21-333 番「主の復活、ハレルヤ」(1節のみ)

ナレーター① 男の弟子たちが全て逃げ去ってしまった後、女たちが大勢、十字架のイエス様を遠くから見守っていました。

司会者 アリマタヤのヨセフは、イエス様の遺体を引き取り、安息日の始まる前に大急ぎで遺体を墓に納めました。女たちは、その場所を見つめている他は何もできませんでした。

聖書朗読 マルコによる福音書 16章 1-3節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

¹安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。²そして、週の初めの日、朝ごく早く、日の出とともに墓に行った。³そして、「誰が墓の入り口からあの石を転がしてくれるのでしょうか」と話し合っていた。

ナレーター① お墓の入り口には、大きな石が転がしてありました。女たちが力を合わせても動かない石です。ところが、彼女たちが行ってみると、石はすでに脇へ転がしてありました。



聖書朗読 マルコによる福音書 16 章 5-8 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

⁵墓の中に入ると、白い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、女たちはひどく驚いた。⁶若者は言った。「驚くことはない。十字架につけられたナザレのイエスを捜しているのだろうが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。⁷さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる。』」⁸彼女たちは、墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、誰にも何も言わなかった。恐ろしかったからである。

ナレーター② 十字架で殺されたイエス様を、命の神は死から引き起こされました。

弟子たちは誰一人としてイエス様に従うことができず、復活を告げられていた者でさえ、恐れて逃げてしまっていました。それにもかかわらず、そんな弟子たちや女たちに対して、「ガリラヤに行けば会える」と天使は告げています。

賛美歌 21-331 番「主はよみがえられた」(3 唱)

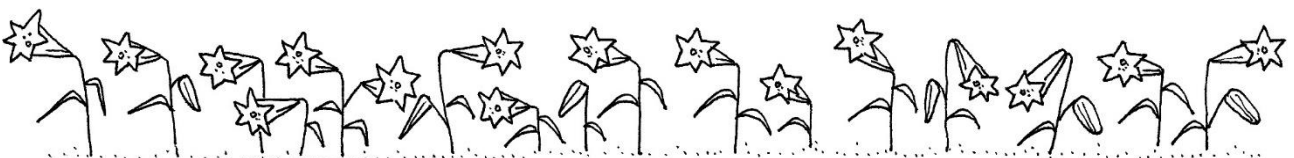
司会者

ガリラヤはイエス様が弟子たちを招いた最初の場所です。「さあ、もう一度、始めよう」とイエス様は全ての人たちに呼びかけておられます。

今、恐れや不安に固く閉ざした心、不信や絶望の中にいる者たちに、神様が再び働きかけてくださったという受難と復活の物語は、今も私たち一人ひとりの心の扉を叩いています。

「さあ、もう一度、ここからイエス様と一緒に歩きだそう」
この呼びかけを聞くところから、死を越える復活の命は輝き始めます。

(「ガリラヤで会える」『別冊 DCE マガジン 3』全国キリスト教教育主事の会 39-41 頁を一部改変)



《先週のメッセージより》2022年4月10日棕櫚の主日(受難節第6主日)礼拝

「表通りの子ろば」

水谷 憲 牧師

聖書 マルコによる福音書 11章 1-11節

イエス・キリストが平和の王としてエルサレムに入城された日にあたる「^{しゅろ}棕櫚の主日」。彼は今まで誰も背に乗せたことのなかった子ろばに乗っておられた。なぜ子どものろばだったのか。子ろばでないといけなかったのか。

ろばという動物は、戦争や狩りに使うために飼育されてきた馬に比べて、いわゆる日常の平和な仕事のために飼育されてきた。知能や体力、忍耐力もすぐれており、砂漠地では馬よりも重宝されていたという。見た目には良い馬などよりも、よほど謙虚で従順な印象もある。しかし、神の目にはそれだけではだめだったのだ。大人のろばでも立派過ぎるのだ。低みに置かれた者、力のない者、何も持たない者をこそ高く用いられる神がキリストのエルサレム入城の御用のために選ばれたのは、まだ力もなく、仕事もできず、従順に飼育されてきいていないわがままな子どものろば。そのゆえに誰からもまだ目もむけられることのない子どものろばだったのだ。

何の仕事もできなさそうな、非力な子ろばが表につながれていたからといって、普段なら誰も気にも留めなかつただろう。しかし、そんな何の役に立つかもわからんような、なきにも等しい者をこそ、神は大切なことのために用いられるのだ、というのが、これまで聖書が繰り返し繰り返し、証しし続けてきたことなのだ。

私たちが毎日いろんな小さな罪を積み重ねてしまうような、弱くつまらない者であっても、また私たちが様々な能力に秀でているわけではない、むしろ自分には何の取り得もないと思ってしまうような者であっても、神はそんな私たちをいつかこの子ろばのように、大事な役目のために必ず用いて下さる。神の役に立ちたいという思いさえ私たちにあれば、そんな私たちを神は見つけ出し、必ず招きに来て下さる。自分のことを卑下しすぎることなく、こんな私だから神様は招きに来て下さる、こんな私だからこそ、神はキリストの役に立つために連れて行って下さるんだと信じて、家の奥に閉じこもるのではなく、あえて表通りで神の招きを待つ者とされたい。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



◎ 先週の報告 4月10日 棕櫚の主日（受難節第6主日）礼拝
 礼拝出席 大人 5名 中継動画再生数 12回
 献金 大人 5,000円 感謝



◎次週 2022年4月24日（日）復活節第2主日礼拝

招きの詞 詩編 150編 6節

聖書 ヨハネによる福音書 20章 24-29節

メッセージ「イエス来ます トマスいます」

賛美歌 21-205番（©P.D.）、21-333番（©出版局）、21-197番（©出版局）

礼拝はインターネットで中継配信いたします。

礼拝の中で、4月にお誕生日を迎えられた方々の祝福式を執り行います。

礼拝後に、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」を行い、いこい食堂にお届けします。どなたでもどうぞ参加ください。（13時までには終了予定です）

◎お知らせ

- ・新型コロナウイルス感染症の感染は依然として続いています。ご自身の感染予防のためにも、他人に感染させないためにも、教会堂に集まる形での礼拝にこだわらず、インターネットの中継配信を利用したご在宅での礼拝など、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。「週報」や「メッセージ（全文）」はホームページからダウンロードしていただくことができます。
- ・大阪教区総会は、5月3日（火）・4日（水）に予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況から、昨年までと同様に書面開催となりました。
- ・次週4月24日（日）午前中には、柏原市にある日本コイノニア福祉会・特別養護老人ホーム「第二好意の庭」にて、入居者の方々のご長寿や一年間の健康を感謝しお祝いする「感謝祝福式」が行われます。
- ・5月8日（日）午後2時から、服部緑地に隣接する服部霊園（豊中市広田町1-1）内にある大阪教区墓地にて、墓前礼拝・納骨式を行います。

◎公告

先週の礼拝後に、2022年度定期教会総会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況が収束しておりませんので、昨年度と同様に書面決議にすることに変更いたしました。教会員の方々には、郵送・Eメール等で議案書をお送りいたしましたので、同封されている「議決権行使書」にご記入の上、4月23日（土）必着で、郵送・FAX・Eメール等でご提出ください。

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
4/24	岡嶋伝道師	誕生者祝福式・おにぎり支援
5/1	牛田牧師	ユーカリスト・教会を考える会
5/8	水谷牧師	家族の日礼拝・（愛餐会は無し） （14時から、服部墓地墓前礼拝・納骨式）
5/15	岡嶋伝道師	聖書を読む会？

